

## 論文番号 216

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Prevalence and co-occurrence of Health Risk Behaviors among High-Risk Drinkers in a primary care population

一次外来での高リスク飲酒群における高リスク健康行動

執筆者

Milagros C, et al

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Preventive Medicine 31,140-147, 2000

キーワード

不健康習慣 (risk behaviors)、高危険飲酒、プライマリケア (一次外来)

要旨

(背景) 一次外来に訪れる患者の約10%は高危険飲酒 (high-risk drinking, HR drinking) の基準を満たしているが、この集団の他の不健康習慣との関連は明らかではない。この研究はプロバイダーが提供する HR drinking を減少させる介入研究 Project Health の参加者の不健康習慣を検討したものである。

(方法) 英語を話し心理的に安定した 9,772 人が HR drinking について調査された。週間飲酒量 (男性 12 杯以上、女性 9 杯以上)、多量飲酒 (男性 5 杯以上、女性 4 杯以上が過去 1 ヶ月に 1 回以上)、CAGE 質問票の 2 項目以上に「はい」と答えた者は、HR drinking が陽性とされ、面談または電話による調査を呼びかけた。この二次調査は 25 分かけて行われ、対象者が HR drinking の基準を満たしているかどうか、不健康習慣 (喫煙、食事、運動に関するもの) の状況について調査された。700 人がこの Project に参加し、そのうち 479 人が分析に必要なすべての項目に回答していた。

(結果) HR drinking の集団で喫煙率は 35%、不適切な食事は 28%、運動不足は 44%であった。HR drinking に加えて、67%の者が少なくとも一つの不健康習慣を持っており、61%が喫煙か運動不足かその両者を持っていた。飲酒が問題であるという認識は 20%と低く、飲酒習慣を変えようという意識も同様であった。複数の不健康習慣を持っている参加者の 72%が、少なくともこれらのうち一つの不健康習慣は問題であることを認識していた。ホワイトカラー勤務者に比し、より若く、未婚で、学歴が低く、ブルーカラーで、無職の参加者は、複数の不健康習慣を持っている割合が高かった。区分 (70-140g /週) で健康状態の低下と禁酒の関連が最も強かった。

(考察) HR drinker は普遍的に不健康習慣をもっており、これが既にこの集団の健康リスクを高くしている可能性がある。HR drinking に対する介入を行う際には、併存する可能性がある複数の不健康習慣について十分考慮して進めていく必要がある。本研究には、不健康習慣についての質問をそれぞれ 1 項目の単純なもので実施しているという限界があるが、一次外来から選ばれた集団を代表する対象であるということに意義がある。